



Title	『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』 第14号 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2016, 14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56955
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』

第14号刊行にあたって

本センターは1954年に留学生別科として設立され、1991年に留学生日本語教育センターへと改組、そして、予備教育開始50周年と本学の国立大学法人化を契機として、2005年4月に教育と研究のいっそうの充実を目指し、日本語日本文化教育センターへと改称いたしました。その後2007年、合併により大阪大学日本語日本文化教育センターとなって、現在に至っています。2011年には「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」に認定され、名実ともに日本における日本語・日本文化教育の中心的存在として教育・研究活動を進めています。

これまで、研究留学生、学部留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生などさまざまな留学生を多数受け入れ、その間、留学生の多様なニーズに応えられるよう教育カリキュラムの工夫・改善を重ねてまいりました。よりよいカリキュラムの開発には、日頃の教育の中から生み出されてきた方法論や教材論を共有し、蓄積することが肝要であると考え、本センターでは2003年3月に、専任教員、非常勤講師がともに自由に日頃の成果を発表できる場として本誌の創刊号を刊行いたしました。また、このほかに、教育の質の向上を目指して、さまざまなFD研修活動を行っています。

大学の活動は研究と教育という二つの柱を中心として展開することを基本としますが、多くの大学では、研究成果に関する紀要は発行していても、教室における活動の内容の報告やカリキュラムの改善など、教育の分野について報告する紀要はごく少数です。もちろん実際に授業内で使用する教材を開発して発行することは多々ありますが、本誌はそのようなものともまた性格を異にし、その意味できわめてユニークなものとも自負しております。

上記のとおり、『授業研究』が発行されるようになった理由は、教員がそれぞれの担当する授業を行う過程で日常的に工夫している点を紹介し、授業を改善しようとする際のヒントとなる事例を共有することです。今回の『授業研究14号』にも、8名の先生、そして1名のティーチング・アシスタントから、日本語学、日本語教育学、日英語翻訳、ユーモア教育などに関する8点の貴重な授業研究報告が寄せられております。ぜひともご紹介いただいた事例をご高覧いただき、参考にしていただければ、編集委員会にとりましても望外の喜びです。

2016年3月

『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』
編集委員会